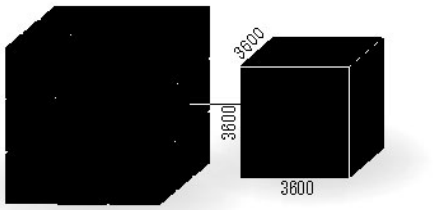
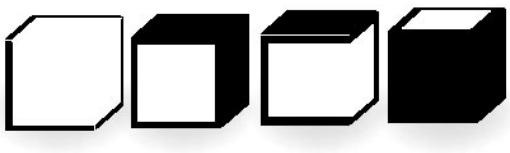
System

立待岬のコンテクストを受け止めるものとして、
3600×3600ｍｍの立方体を軸上に置いていく。
自然の中に配置された立方体は、
その空間にあったコンテクストを映す器になる。
器は人の動線と交わり、
それぞれが関係し合い空間を形づくる。

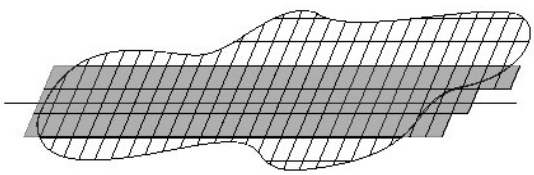
3600ｍｍを基調とした箱。
この箱の郡体が海の茶室となる。



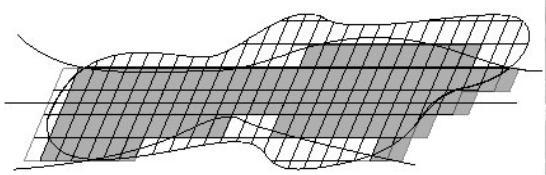
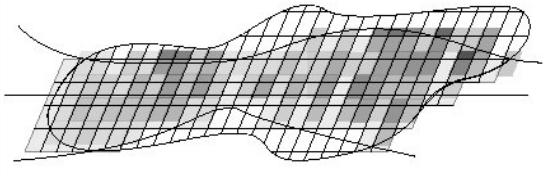
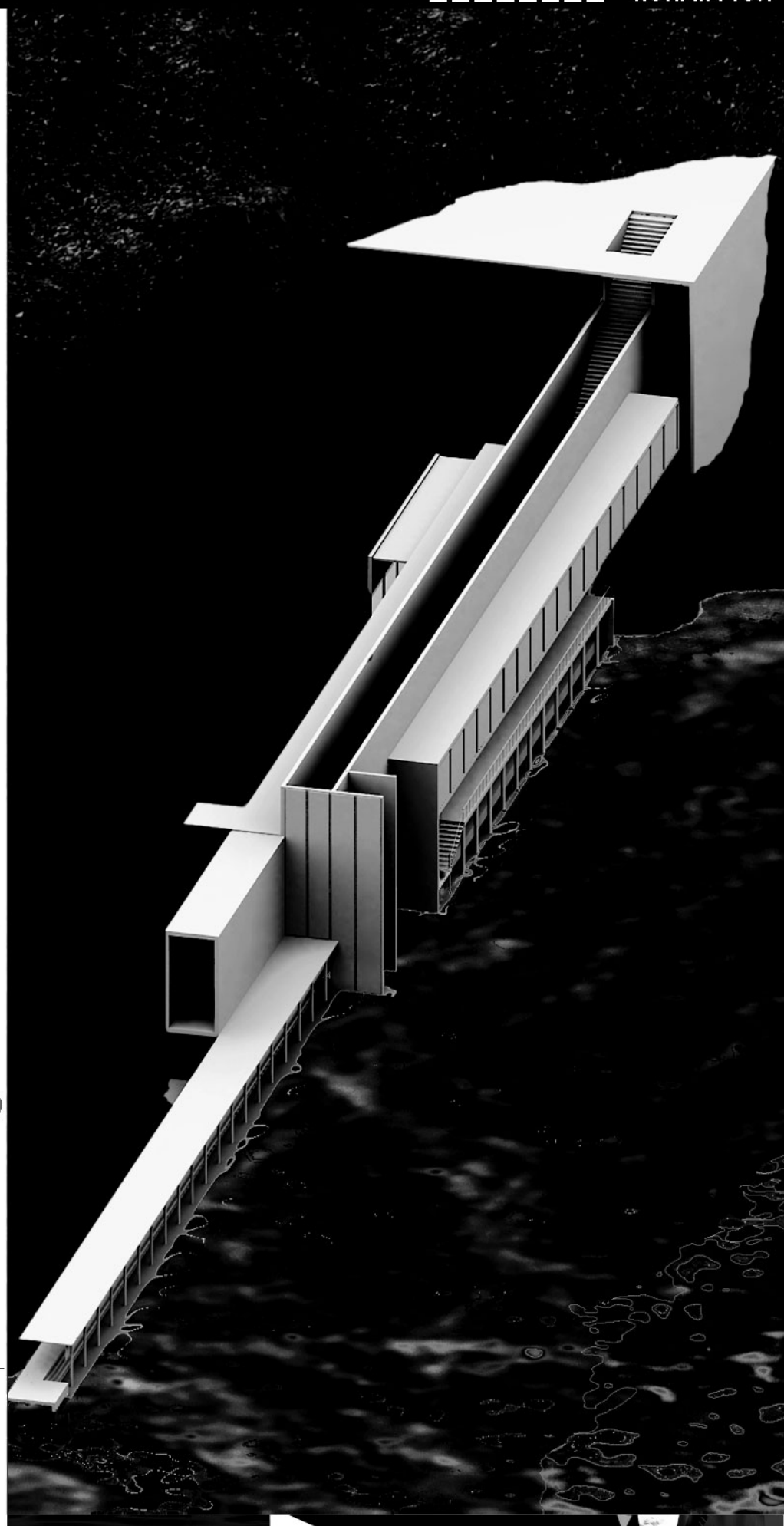
敷地に配置された箱は
動線をなぞるようにつながっていく。
そしてそれぞれの箱が、その場所で最も
コンテクストが強く現れている方向に面を開け放つ。
配置された箱が周囲を切り取るように
自然を取り込んでいく。
それぞれの箱がその地点の状況を反映する。



STEP1　軸上に立方体を配置する



STEP2　周囲の環境に合わせて位置と面を変化させる



STEP3　周囲の状況により空間が変化する